

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 4 月 24 日
事業所名	フレンズハウス七番町
事業所番号	2 3 7 1 1 0 0 7 1 6
記入者名	職名 管理者 氏名 宮丸 啓子
連絡先電話番号	0 5 2 - 6 6 1 - 9 9 3 3

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>フレンズハウスの理念「自分に厳しく 相手に優しく 友とふれあい 家庭的な温もりの中で 笑顔に満ちた ゆとりとやすらぎのある我が家」である。(地域密着型サービスとしての理念かは分からない)</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は事務所入り口・リビングに掲示し、日々心がけながら業務についているが、理念についての話し合いは行っていない。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や「フレンズニュース」等を通して、理解を深めている。</p>	○
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩時の挨拶。近隣の方へ夏祭り参加の呼びかけ。回覧板でのフレンズニュース回覧。運営推進会議に町内会長の参加。玄関の開放。</p>	○
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事（餅つき、盆踊り等）に参加。また、運営推進会議で町内の行事を聞き参加している。町内会に参加</p>	○
<p>ホームが地域と家族との橋渡しになるような存在でありたい。</p> <p>昨年末に屋上庭園が完成したので、お披露目会をかねて、ご近所の方々を呼び更なる交流を深めたい。</p> <p>老人会との交流をしていきたい。 今まで以上に町内会の行事に参加していきたい。</p>			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内をいつでも見学出来るように、玄関を開放している。	○	地域の方がいつでも相談が出来るようにしていきたい。ホーム内にとどまらず、地域に貢献できる活動をしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	よりよいサービスを行っていくとの考えにより、評価の意義は理解できる。前回の評価で指摘されたことを改善するように努めてきた。自己評価を行い自分に足りないものを見つけ改善に努めている。	○	これからも評価を生かし、自己の向上と事業所の向上に努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事の報告、町内での取り組みを聞き、参加や協力の出来る事は行なっている。運営会議の内容がよく伝わってこない。(フロアーに)	○	全職員に伝わるよう、報告をしたい。
9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携についてはあまり行っていない。(警察署には緊急時のお願いに行っている。)	○	今後、積極的に行っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な家族は活用しているが支援は来ていない。	○	勉強会などを行い、制度についての理解に努める必要がある。
11	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連の資料をコピーし回覧して意識を高め、注意を払っている。入浴時などに全身観察を行い状態を把握する。変化があった場合は報告、記録を残すようにしている。	○	他職員と十分にコミュニケーションを取っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は管理者が行なっているため、職員がわからない部分もあり、家族からの質問があった場合は、管理者に確認後伝えたり、管理者から再度説明を行う。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より利用者の話を聞き、耳を傾け、管理者に伝えている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回フレンズ通信をご家族に郵送し、暮らしぶりを伝えている。利用者のお小遣いについては小遣い帳をつけ、毎月ご家族に確認、印鑑を頂いている。健康に何か異常があった場合はすぐにご家族に連絡をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置し、直接言いにくい事でも伝えていただける環境作りをしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回ミーティングを開き、意見の交換、提案を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて職員が協力するよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フロアーの移動、他事業所への移動等はほとんどない。離職の場合は利用者も納得し、希望が持てるような内容で伝えている。(事実と違う場合もある)		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、法人外研修を行っている。研修で学んだ事を他職員にも伝え、仕事に生かせるよう努めている。	○	研修で学んだ事を踏まえ、意見交換をし、スキルアップに努めて行きたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のデイサービス事業者等のお便りやニュースが定期的に回覧されている。同法人のグループホーム、デイサービスと交流し、研修を行っている。	○	一部だけでなく、全体で行えるようにしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の定例会にて事業所同士、職員同士のコミュニケーションの場を設けている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	より高いレベルでの介護をする為に、介護福祉士、ケアマネジャーの資格取得のバックアップ、評価、業務の振り分けなど、一人ひとり役割を持てるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談、見学を行いホームを知っていただき、理解を深めていただく。利用者の嗜好やこれまでの暮らしぶり等を聞き、不安な事はないか話していただくように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームで生活することで、安心感を持って頂けるように心がけている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族との意見交換、情報の共有をし、必要な情報を提供できるように心がけている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員が利用者の中に入り、お互いに溶け込みやすい環境を作っている。一人ひとりに合ったサービス提供をしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の知恵を教わりながら、一緒に生活しているという気持ちで支援するよう努めている。信頼され、支えあえるよう努力している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望を聞き、意見交換をしながら安心していただけるようにしている。また、随時ご家族と連絡を取り、報告も行っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に利用者のこれまでのバックグラウンド書いて頂き、活用している。行事、旅行などに参加して頂き、より良い関係が築けるように努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけるようにしている。手紙、電話の取次ぎなどの支援。ご家族との外出。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアのソファー席、畳席等がコミュニケーションの場になっている。職員が仲介しながら家事手伝いを行っている。出来る利用者が出来ない利用者を助け、協力している。(職員が手を出しすぎない)		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の了承を得て面会などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>共同生活の中でも一人ひとりの望む暮らしや、一日の流れを把握し少しでも希望に添えるよう、努力している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時に書いていただいたバックグラウンドを参考にし、利用者との日常生活の中での会話の中で、生活しやすい環境作りを行っている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別に記録する事で、一日の状況を把握し、その時の一番ベストな方法がないか職員間で話し合い、実行している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族、他職員の意見を聞き、ケアプランの作成。それにともなったチェック表で日々の変化にも気づきやすくし、その時に必要なケアを行えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>これからも家族や他職員とよく話し合い、意見を聞き、よりよいケアプランを作成したい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>チェック表をもとに変化に応じてプランを変更している。また、入院等で状況に変化があった場合もその都度作成しなおしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入する事で変化に気づきやすくし、把握できるようにしている。ミーティングや申し送りノートを活用し、活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスでの催し物に参加したり、設備を使わせてもらったりしている。 家族の状況に応じて対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音大生の演奏会、アニマルセラピー、小学校の行事の参加など行っている。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	マッサージ、散髪、生け花などを行っている。本人の必要性に応じて支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行われていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回往診があり、かかりつけ医が24時間の対応をしている。他医療機関受診時は、かかりつけ医からの情報提供書、職員からの状況報告書を渡している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回の往診時に診ていただいている。(必要に応じて、血液検査、長谷川式スケールを行っている)		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員とは細部にわたり報告、相談し、助言をもらっている。また、主治医との連携が取れており、そちらの看護師に相談助言を受ける事が出来る。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院との情報交換、入院者の面会を行い不安の軽減を図る。また、医師や看護師、家族に状況を聞き、それに向けての支援を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族と話し合い、その方針にそって支援している。(重度化時における医療サービス提供内容に関する指針の同意書を頂いている。)		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状を理解し、安全安心に生活出来るように支援していく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族、利用者との話し合いの場を設け、納得のいくような説明を行い、介護サマリーや主治医からの情報提供書、また、住み替え先の方に情報を提供している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報を外部に漏らさない。(職員入社時に誓約書を記入) 人生の先輩として、言葉遣いや対応に気を付けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>介護者のきめ付けではなく、自己決定が出来るような声かけ、援助を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>安全面を考慮したうえで、出来るだけ沿うようにしている。(難しい部分もあるが・・・)</p>	<p>○ ゆとりを持って対応。見守りのケアをしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月1階の訪問理美容でカット、顔そり等を行っている。着替えをする際は利用者を選択をして頂く。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	役割を担うことにより、日々の暮らしにはりを持って頂けるよう努めている。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		家事に関することを一緒にして頂き、まだ出来るんだと自信を持っていただく。週に1回の外出や、生け花、レクリエーションへの参加、支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理の出来る方は、金額を決め管理をさせていただいている。管理の難しい方は外出時等に職員付き添いで支払うなどの支援を行っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>週に1回外出ツアーを設け、利用者の要望も聞きながら計画を立てている。天候のよい日には散歩や屋上の花壇を見に行ったりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>週に1回の外出ツアー、日帰り旅行、一泊旅行、居酒屋ツアーなどを行っており、家族の参加も呼びかけている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>散歩時に公衆電話を利用している。(ホーム内には公衆電話が置いていない) 年賀状や暑中見舞い、手紙など、希望に応じて支援している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会はいつでも出来、居室でもリビングでも過ごしていただくことができる。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修会等への参加。 身体拘束は行っていない。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、また、玄関も天候不良の日以外の日中は開放している。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る際は必ずノックをする。また、リビングで過ごされている場合には必ず了承を得てから入るようにしている。 昼間は2時間おきの所在確認。夜間は1時間おきの巡視を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液などが置いてある場所は施錠している。利用者が必要なものは話をし、必要なときにその都度お渡しする。(管理は職員)		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデントを活用し、同じような事故が起きないよう心がけている。 防災会議、防災訓練などを行い、いざの時に備えている。 警察署への緊急時の要請のお願いをしている。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。	○	急変時にあわてないように心がけたい。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災会議、防災訓練を行っている。	○	災害時の食料や水の確保を行っている。定期的に点検し、補充を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に説明し、対応策を職員と話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的なバイタルチェック。個別記録、申し送りノートでの記録、情報の共有。異常時は主治医(24時間対応)に連絡し支援を仰ぐ。		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋用紙をファイルに挟み、すぐに確認出来るようにしている。薬の変更があった場合は申し送りノートに記入、報告。内服は、毎回職員で確認し、服薬チェック表に記入。		
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を付け、間隔の把握。水分補給を促し、食物繊維を摂れるような食事の工夫。毎日の体操や散歩等、適度な運動をして頂く。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きうがいの徹底(朝、夕)。義歯は回収し洗浄剤にて除菌洗浄。うがいの出来ない方、口臭のひどい方はイソジンガーグルを使用。	○	昼の実施の徹底。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に記入。水分摂取量の少ない方や持病を持っている人はそれ以外にケアプラン等にあげ把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成している。（全職員に配布）		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日布巾、まな板はハイター消毒を行い、チェック表にて確認を行っている。生鮮食品はまとめ買いをせず、その都度購入している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節ごとのはなをプランターに植えており、昼間は開放している。夜間ホーム周辺が暗くなる為、街灯を設置。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るようにその時期その時期にあった飾りをしている。トイレ等頻繁に汚れる場所はこまめにチェックし清潔を保てるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳、テーブル席等好きな場所でくつろがれる。（テーブル席ではトランプやゲーム等をしている）食事時間以外は好きな場所に座られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ってきて頂き、居室のレイ アウトなどはご家族と入居者で決められる。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気を行う。それ以外 の日は常時換気扇を回し換気を行う。居室の温 度にも注意しこまめにチェックしている。加湿 にも気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	手すりのないトイレ、浴室には手すりを設置。 段差も最小限になっている。居室、廊下にも手 すりがある。余計なものを置かないようにし、 つまずいて転倒しないように気をつけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレ、浴室、居室などに、分かりやすく表示を つけ、トイレの表示も1つだけでなく「トイレ」 「お手洗い」などと2つの表示で示している。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関先にはプランター、屋上には花壇があり、季 節の花を眺めたり育てたりしている。行事で バーベキューを行ったりもする。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症が進行しないよう、計算問題やパズル、漢字書き取り等を行っている。系列のグループホームやデイサービス等との連携が取れており、法人合同の旅行や交流行事を行っている。 昨年末に作られた屋上の花壇、春になり花が咲き始め、利用者も職員も楽しみにしている。また、七番町のマスコット猫の「なな」も利用者と一緒に日々暮らし、遊んだりなでたりと癒しに一役買っている。(ご家族の癒しにも・・・) ホーム内での役割を利用者の状態に応じて決め、役割を担う事により、日々の生活に張りを持つようADLの向上に努めている。